

作成日	2025 年 6 月 12 日
研究科名	食物栄養学専攻

自己評価：S・**A**・B・C

評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

参照資料

- ・令和6年度自己点検評価シート
- ・令和6年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画およびR7学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等

【現状分析】

(ア) 昨年度の自己点検・評価は以下の3点である。

(1) 「ばらつきのない志願者を確保するために食物栄養学科専攻の特徴や利点を、学内外の志願者に、幅広く伝えることが必要である」について、HPにおいて動画での解説を行なっている。ここでは在学生からのメッセージも伝えている。

(2) 「将来に向けて若手教員の登用を考える」について、2025年より40歳代の指導教員が加わった。

(3) 「他大学学生、卒業生との交流の低さの満足度が低い」については、学会発表への参加などが外部との交流の機会となっている。

(イ) 研究指導においては指導教員による少人数教育のもと研究、研究発表の指導や支援が行われている。さらに大学院では修士1回生2月に学科全教員出席のもと中間発表を行い、指導教員のみならず幅広い指導を受けて次年度の研究へとつなげている。また修士2回生時には家政学研究科での修士論文発表会に先立ち、学科の全教員に対して発表を行い指導を受けた上で修士論文を作成している。また授業においてはシラバスに示された内容に従い、指導やフィードバックが行われている。

2024年度大学院卒業時アンケートで、「プレゼンテーション能力が身に付く授業の多さ」、「教員と学生の距離の近さ」、「教員の授業への取り組みの熱心さ」、「最先端の研究に触れられる」、「自分を成長させてくれる教員との出会い」、「将来の職業に役立つ知識・技術を身につけられる授業の多さ」、「専門的な知識が身に付く授業の多さ」の項目で5・大変満足しているとなっている。また全体の満足度も5となっている。2025年の大学院アンケートにおいても「教員の研究指導は適切であった」で大変当てはまる6名、やや当てはまる1名、「課題等に対するフィードバックは効果的に行われていた」で大変当てはまる3名、やや当てはまる4名となっている。以上のこと

からも適切な指導が行われていると言える。

【成果】

(ア)「将来に向けて若手教員の登用を考える」について、2025年より40歳代の指導教員が加わった。

(イ) 研究指導及び授業において、特段の変更は行なっていないが、2022年、2023年、2024年において卒業生の満足度は4、4.8、5と高い満足度が示されている。

【課題】

(イ) 大学院卒業時アンケートにおいて満足度の低い項目として、「外国人留学生との交流が盛んである」、「語学力が向上する授業・制度」、「国際感覚が身に付く授業の多さ」、「他の学校との交流が盛んである」があげられる。

【改善・発展方策】

(イ)外国人留学生との交流は外国人留学生がいない現状では難しい。他の学校との交流及び国際感覚を身につける機会として、学会発表での交流や外国人の発表(一般口頭、ポスター、特別公演)、懇親会に積極的に参加するよう学生に働きかける。